

第2回山形県文化財保存活用大綱策定作業部会 議事録

日時：令和3年6月10日（木）13:00~15:30

場所：山形県生涯学習センター 第1研修室

<各委員の主な意見>

議題1 第1回部会における委員の主な意見について

なし

議題2 文化財保護実態調査の結果概要について

- 回答率76.3%ということで、回答されなかった方々はこういった文化財を所有されている方なのか。そこから、文化財の継承が困難な理由が見えてくるのでは。
- 維持管理にお金がかかる問題は避けられないことが明らかになった。行政による予算確保はなかなか難しいが、ぜひ頑張ってもらいたい。
- 回答数を見ると、「観光で文化財を使って欲しい」といった感じではないようだ。活用に舵を切るといった流れもあったが、現場の意識はそうじゃないということ。
- 分野によって問題点が違う。全部まとめて論じるとそれぞれ抱えている問題があまり出せない。非常にいい調査を実施したので、もう少し詳しく分析すると、もっといい結果出ると思う。
- 全国的にも貴重な調査結果なので、ぜひ共有、公開するとうい。
- 調査が行われた時期が大事。コロナ後なので、文化財の活用と保存についての社会全体の意識が若干変わってきている時期。
- 地域差について言及してほしい。日本全国、どの地域も同じ温度ではないと思う。比較対象となるほかの地域の調査があるかどうかは分からないが、文化財に対する考え方に関する特色というのがあると思うので、あぶり出せたら良い。

議題3 骨子案について

<1 策定にあたって>

- 文化財というのは、たとえ個人所有のものであっても、地域の宝。地域全体が協力して守っていくものだという意識が大事。
- 一方で、先祖から引き継いだものとして大変な環境の中で守ってきた方々もいらっしゃるのでは、敬意を表した上で、地域の宝として次世代につなぐことに留意する必要がある。
- 人口減少に伴って担い手が不足しているというのは確かだと思うが、まちづくりに関わるシニア層が多い。プラスの要素として、シニア層の参画という視点は大事。
- コロナで県外に出られない状況で、県民の地元への関心が高まっている。地元の人々が地元の資源、文化財を見直す大きなきっかけになっている。プラスの側面として捉えても良いのでは。

〈2 文化財を取り巻く課題 / 4 基本方針の展開〉

- p24の保存のうち調査について。未指定品の把握はとても重要。未指定だからといって価値がないわけではない。
- 保存のうち指定について。指定はゴールではなくて、言わばスタート。指定した後のサポートをどのようにしていくかということが重要。例えばモニタリングとか継続的な調査を実施してはいかがか。継続的に関わることで、普段からのネットワークの構築や防災にもつながっていく。
- 研究者や行政の役目として、一般の方に文化財の学術的価値を伝えて理解してもらうことがある。さらに、「大変古いもので地域の人が代々受け継いできた貴重なものだから守っていきましょう」では、理解してもらえないので、今日的な意味も絡めて理解を促す必要がある。なので、順番としては、p30「文化財を大切にすることを育む」は活用が一番冒頭にあるべき。また、p29「バランスの取れた活用」も表現を再考すべき。
- 活用について。活用というと、何か成果を県民が享受するというイメージ。例えば古文書の虫干し、お掃除、建物周辺の草刈りなど維持管理のようなことでも、文化財の価値を知ることにつながるので、活用とも言える。成果を知ることだけではなく、過程に参加するというのも、また活用なのであるという位置づけをすることで、幅が広がる。
- 活用について。観光活用は、旅行という表面的な、一時的な発信で終わってしまう。一般の県民に分かりやすく伝えたいがために本質的なところ、本当の意味、文化的な意味も、なかなか伝わらない。そうならないためには、継続して触れる、発信し続ける、関心を持ち続けられるような工夫、仕組みづくりが必要。一時的な観光ではなく、その後のフォローが大事。
- 活用について。一般の人が文化財に触れる機会が少ない。民間企業と連携するなどして、文化財をより身近に感じてもらう工夫が必要。
- 継承の基盤について。地域住民の協力はやはり一番大事だが、人口減少、世代交代、信仰心の薄れなどによって一番難しいところでもある。今の時代にカスタマイズした在り方を探る必要がある。
- 継承の基盤について。所有者が孤立しないようにしなければならない。研究者等が行政と繋ぐ役割をはたすことも大事。
- 防災について。市町村の地域防災計画に文化財の記述が少ない。大綱で、文化財防災の必要性を書き加えることで、市町村の動きを後押しする必要がある。

〈3 全体理念〉

- 人々の求めるものは、地域とのつながりであったり、つながることのできる場。そういったことを醸成する素材の一つに文化財がなり得るという視点がある。
- 文化財関係のつながりをつくる時は、分野で隔てずに色々あったほうがいい。様々な関係者が関わっている状態がいい。
- 文化財の本質的意義、正しい理解の上に、様々な取組が行われるという前提を守る

ことが大事。

〈5 推進にあたって〉

- 県立博物館について、文化財保護の拠点になるというのはもちろん、文化財の防災という観点からも拠点機能を備えるべき。
- 県立博物館には、所有者と行政をつなぐ役割がある。文化財をどのように保存していくのか、その情報をどう発信していくのかなどの所有者の心配事、困り事の相談役であって欲しい。
- 地域計画を作成する市町村がすごく大事。県は、市町村をバックアップできる専門的な知見、情報を持っていなければならない。一方で、これは駄目ですよという指導もできる能力が必要。
- 県民の役割について。民間企業や各種団体、大学などの多様な主体が良識を持ち、また、良質な関係性を築くような努力をしていただくことが大事。その地域だけで文化財をこれから守っていくというのはかなり厳しい側面もあるため、お互いに良い関係性を築けると良い。

議題4 その他

- このような議論に携わらせていただき、私たち委員もこれからはますますいい大綱にしていくように頑張っていきたい。本日も様々意見出たが、大筋は皆さん共通している。この部分をこうするともっと良いなど、非常によい方向にまとまりつつあると思う。